

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070100971
法人名	学校法人 井上学園
事業所名	グループホームひまわり (ユニット名)
所在地	福岡県北九州市門司区稲積1-12-27
自己評価作成日	平成31年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	平成31年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①楽しい毎日、笑いのあるグループホームをめざしている。利用者の和と職員の輪が共感出来る介護。②地域の幼稚園児との交流を実施し「幼老共生」を実践している。③介護を受ける立場の方への共感を基本とした介護の実践をしています。④昨年より今日、今日より明日への利用者「生きていて良かった、楽しかった」と実感してもらえる介護を実践しています。⑤健康づくりは食の安全、家庭菜園にての無農薬作り野菜の提供と中国産の食材を利用しないように実行している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅街に位置しており、中庭を囲んだつくりの明るい建物である。事業所のすぐそばには小川も流れており散歩コースにも適している。母体法人は学校法人で幼稚園も運営しており児童と高齢者福祉に取り組んでいる環境があり、グループホーム利用者と幼稚園児との交流もしている。事業所の調理担当者は、食育アドバイザーの資格を有しており、バランスの取れた手作りの食事を提供している。栄養面と衛生面への配慮が功を奏してかインフルエンザの感染者が出ておらず、職員も利用者も元気に過ごすことができています。また、訪問看護との連携をとることを家族と協力しながら進めており、安心して生活が送れるようにしている。福祉系学校の外国人学生の実習や、ボランティアグループの訪問を受け入れながら地域との交流にも取り組んでいる事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症利用者の日々の介護に尊厳を守るという理念を中心に取り組んでいる。	会議の時や申し送りの際に、理念について考える機会を作っている。事業所名称になっている「ひまわり」の花ことばにある「献身」ということについても玄関先に飾り出し、支援の際の指標にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加を積極的に行っている。	校区内にある小学校の催しに利用者と一緒でかけたり、マラソンの応援で手を振りあったりして交流の機会としている。法人の幼稚園が行うバザーに行くこともあり相互の行き来をしている。包括支援センターからボランティアグループの情報を得て、ひよっこ踊りやギター演奏に来てもらうことがあり、地域との交流もしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	理念を玄関に掲げ、家族、来訪者が目にする事が出来る。いつでも見学、相談を受け付け認知症理解の理解の浸透に取り組んでいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホーム・利用者様・職員等の動向地域での状況について話され推進委員の方々の意見はサービス向上に生かしている。	運営推進会議は、規程の回数開催に至っていないが、地域包括支援センターや民生委員、ご家族、管理者、ケアマネジャーが参加して実施している。協力医や町内会関係者にも参加の声掛けをしているところである。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターや市の担当者と西門司市民センターと連絡をいつもとっている。	地域包括支援センターや介護保険課の担当者とは制度についての問合せ等で訪問をすることがある。人材確保のことも行政担当者に話を聞くことがあり、協力体制を整えている。行政からの研修案内等も届いているが受講等には至っていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実践している。身体拘束の見聞した具体的例について情報提供を行う(入院中利用者等の例)	身体拘束を行わないケアの実践に努めている。特に、言葉づかいについては、感情的にならないように職員間で気をつけあっている。利用者の身体状況により、一人で外出することはない。玄関から車道までのアプローチがスロープになっているため安全上の配慮で玄関の入り口は施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の虐待について所内研修の実施。他人事でないという意識、認識を持つことを日々いましめあっている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には研修参加、入居者様家族については家屋、財産等の事で活用を促すように常に話しをしている。	権利に関する制度については、現在は対象者がなく、家族との関係で活用している事例はない。制度を周知する取り組みについては案内パンフレット等を取り寄せる意向である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問については理解を得るように説明、不安な点についてはいつでも説明を行う。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用料請求時意見、苦情受け付ける用紙を同封。家族よりの意見については職員に回覧する。	ケアプラン更新の時など年に2回は、家族に事業所に来てもらっており、その時に話を聞くようにしている。毎日会いに来る家族もいるが、家族から要望等がある場合は口頭で聞き取っている。衣替えのことや最近の様子等は電話でも報告をするようにしており、よりよい関係づくりを目指している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者様のより良い生活を支えるためにはまだまだ試行錯誤という事を伝え家族の意見、苦情がホームの運営に大きな力を持っていると話している。	職員は、管理者とよく話をする関係にあり、物品購入等も予算の範囲内で相談し、対応してもらっている。管理者の方からも職員に意見を求めてくることがあり、よりよい事業所運営に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力、実績に応じて雇用形態役職賃金に反映している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用にあたって、性別、年齢は問題にしていない。シルバー人材センターから紹介者の生活保護受給者の雇用もあり。	職員採用についての条件等は特段なく、家庭の都合等への配慮もなされている。職員は得意なことを活かして、クラフトや折り紙などで環境整備や制作活動に取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権や尊厳を守る介護とは日常の暮らしを支える介護の基本と啓発している。	日頃のかかわりにおいて人権を重んじるように心がけている。人権学習に特化した研修への参加は日程の都合がつかないことが多く、地域の医療機関で行われている研修の案内をみて都合が合う日には参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は人員不足により十分な研修に参加出来ないでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会は都合により退会したが、グループホーム協議会での交流でお互いの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員個々のコミュニケーション能力の向上に努め傾聴して、共感的態度で接し、信頼関係の構築を図る。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の今までの介護の苦勞を受け止め、指示。共感を持って聴く。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が求めているものが「何なのか」を見きわめる必要がある。相談を受け、他のサービスについてもネットワークを利用する。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係をつくりを積極的に行う。お互いに「ありがとう」と言える関係にある。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護経験や社会生活の様々な立場の家族とコミュニケーションを取る事は介護現場だけで本人を見る立場とは違いあらたに家族と共に支えている思いを持つ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節毎のお便りハガキを兄妹姉妹、孫、子、友人に出す支援。また、たよりが帰ってくるのに喜びを持つ。	利用者の友人が数ヶ月おきに会いにきたり、孫が会いにきたりしており、その際はお茶を出したりして歓待している。事業所近隣からの利用者が多く、買い物などには行きたがらない声もある中で、近隣のファミリーレストランはよく出かけておりなじみの場所になっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	くつろぎタイム・ティタイムの時間に回想法を取り入れ個々の話の利用者同士が関わり合えるように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者の家族の往来がある。また、病院入院中のへのお見舞いを職員は行い安否を気ずかう。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホーム内でのその人らしい生き方、暮らし方が何であるかは日々検討している。	職員は、家族の訪問時に話を聞いたり、利用者の表情や動作等を観て、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また、「回想法」実施時の会話から、どのような暮らし方が本人にとって、最良なのかを職員全員が、意見を出し合って話し合い検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から聞き取り、提出文書または本人からの聞き取り。回想法実施時の話の内容等で生活歴や暮らし方の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守り重視、出来ることは続けてもらう、また出来る事を見つける支援、心身状態の把握については毎日の各種記録及び毎日2回の引き継ぎミーティングにて行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	良い暮らしとは何かと、その人、その人の本人らしい暮らし方を支える介護計画をしている。月に1度、個別カンファレンスを行っている。	月に1度、全職員で、一人ひとりの利用者について、日頃の関わりの中での「気づき」を話し合い、現状に即した介護計画を作成している。本人、家族の要望や変化が生じた場合は、臨機応変に介護計画の見直しを行っている。新規の利用者の体調の変化に気づき、受け入れ時には、伝達されていなかった膝の痛みがあることがわかり、介護計画が変更になった例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は毎日記録、引き継ぎミーティングや職員会議で情報を共有。実践や会議計画に反映しながら見直しも行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人らしさを支援する為に居室に好みのお花を飾ったり、家族の写真や好みのカレンダーを居室に貼っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節毎の幼稚園園児の来訪。西門司市民センター文化祭の行事に参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域のかかりつけ医は当ホームの運営推進委員の一員。月1回の往診、3ヶ月に1度の血液検査、相談の実施。緊急マニュアル作成を連携をとり作成している。	かかりつけ医は本人家族の希望により選択できている。事業所では、かかりつけ医や協力医療機関等と連携を取り、利用者の症状に応じて、適切な医療が受けられるように、本人や家族等の希望を把握した上で支援している。また、訪問看護や訪問歯科の診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関と関係を密にしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携病院の看護師と馴染みの関係であり医師往診時にホームに同行し気軽に相談できる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に家族と同行、入院に至るまでの情報提供を行う。主治医、ソーシャルワーカーとの連携を行う。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が優先となる入居者の介護は「グループホームひまわり」ではできないこととしている。重度化や致命的疾患をもつ入居者に対して、緊急時マニュアル作成をしている。出来るだけホームでの生活支援。	契約時に、現段階では看取りの実施ができない事を理解してもらっている。重度化した場合は、かかりつけ医や協力医の指示の基に本人・家族等と十分に話し合い、適切な医療や介護が受けられるように取り組んでいる。職員は協力医療機関が主催の「施設参加型研修会」を受講し、高齢者に関する医療関連の知識を学び、利用者の健康管理に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練実施。定期的に実施。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練実施。地域の方の協力は得られる体制。	全職員は利用者の避難誘導方法を理解している。車いす利用者は、居室扉に車いすマークを貼って有事に備えている。昼夜を想定した避難訓練を実施している。避難訓練時には、地域の協力を得られる体制ではあるが、訓練の度に地域の方が参加するのは難しい状況である。飲料水、紙オムツ等の備蓄品はあるが、他の物品については現在検討中である。	火災や地震、水害等の発生に備えて人数分の非常用食料・備品の準備が望まれる。今後も、地域の方々との協力体制を強化し、避難誘導訓練が地域の参加者と共に、より手際よくスムーズに実施できるように備えておくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護に関しては職員は細心の注意を優先している。	排泄誘導の声かけは、他の利用者に気付かれないように配慮し行なっている。失禁時も羞恥心に配慮して周囲に気づかれないように居室やトイレ内に誘導し、介助を行なっている。利用者情報に関する書類の管理は、職員のみが出入りする部屋に保管している。記録の記入時も利用者から見えないように注意して行なっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の生活場面で入居者が自分で選べる事の出来る場面を設定している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々その時状況に合わせ希望にそうように支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容は職員が行っている。本人の意思が言える関係にある。その人らしいおしゃれなど、TPOに応じて支援。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	味見、味付け、盛り付けの用意、準備、後かたづけ等その人の出来る事をしてもらう。	利用者は、使い慣れた好みの食器や湯飲み等を使っている。事業所敷地内の畑で、母体法人の幼稚園児達が育てた野菜を食材として使う事もある。食育アドバイザーの資格を持つ職員が栄養のバランスや一人ひとりの好みや習慣に応じた調理を行なっている。本人のできる事を職員と共に行ない食事が楽しみになるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェック実施。水分量は1日1,400cc前後を目標。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの実施。義歯の適応の確認。みがき残しのないように介助を行う。口腔内のチェックを行う、訪問歯科の利用、医師の指導によりその方に合った口腔ケアの実践。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに応じた排泄の支援。自立を心がけています。	排泄のパターンや習慣に合わせて、ポータブルトイレや紙パンツ、オムツの使用は、利用者ごとに時間帯を替えて、生活リズムに合わせた排泄介助を行なっている。トイレ内の手すりの角度が変えられ、本人のできる機能に合わせて、手すりを持ってもらい、排泄の自立に向けた支援を行なっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策の為、食材やメニューの選択。毎日2回の体操、歩行訓練を支援している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにされている方が多い。週2回実施。失禁時清潔保持の為シャワー浴を行うこともある。	入浴を楽しめるように菖蒲湯やゆず湯にすることもある。入る順番も早く入りたい方やゆっくり入りたい方等の希望を取り入れて決めている。一人ひとりの意向を第一に、くつろいだ気分で入浴ができるように工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングにて傾眠が見られる際には居室内での休憩を促す。夜間の睡眠も安心してもらえるように常に室温状態に気をつけている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての書物の常備。確実に与薬できるように担当が決まっている。内容の変化については情報の共有化の為に薬袋に記入。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中でその方の出来る役割りへの積極的支援。能力に応じた役割、楽しみ事への支援。行事の時などの皆様の好物のにぎり寿司の出前をとっている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その時々状況により外出支援を行っている。	日常的に、一人ひとりの体調や希望に沿って、近くの公園に出かけている。車いす介助の方と他の利用者と一緒に出かけることもある。又、季節ごとの花見や食事等の外出支援を行なっている。家族の訪問時に誘うと参加する場合があります、協力のもと出かける支援をしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は任されている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の安否の確認の為の電話をかける支援。家族、友人に季節のたよりを出す支援。たよりが返ってくる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は安心して過ごせるように配慮している。中庭には季節の草木、花の成長が見られます。天窓からの採光調節にカーテンを使用している。	居間兼食堂は、台所からの煮炊きをする音や匂いが感じら、ソファや椅子、テーブル等を配置し、ゆっくりと過ごせる空間となっている。訪問時、お雛様が玄関や居間に飾られていた。各居室の扉には、様々な季節の花の切り絵を掲示している。生活感や季節感がある家庭的な雰囲気作りを随所でしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームはいつでも会話がゆっくりに出来るようにL型になっており、席の移動は可能な状態になっている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染みの物が持ち込まれている。花の好きな方には季節の花を飾れるように支援。読書が好きな方には希望する本を購入する。	居室は利用者が変わるとに、専門の清掃業者が入り、衛生的で気持ち良く利用できる。本人の使い慣れた家具や仏壇などの持ち込みが可能である。家族写真や本人作成の季節の折り紙、毛筆の書き初めなどを飾り、本人が安心して居心地よく過ごせる工夫をしている。希望があれば、家族の宿泊も可能である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー対応。手すりの設置。共同のトイレ、入浴設備はわかりやすい位置にあり、文字を描いて目印にしている。		